

序

耳鼻咽喉科は創刊当時、日耳鼻学会誌の他に、臨床耳鼻咽喉科も発刊されていたので、その目的を臨床研究におき、日常臨床に密接する報告を主とし、その他適宜話題となるものなども掲載された。そのため学会誌とは別な特色をもっていた。この方針は現在でも変わらないが、編集担当者の能力の貧弱さから、往時とは多少違っているところがある。

特集号は第24巻から始められ、今回で26回となつた。これも特色のひとつといえよう。

さて学問の細分化とともに、国の内外を問わず、出版物の増加は最近特に著しい。医学書においても同様である。

耳鼻咽喉科領域だけについても、広く眼を通すことは容易でない。多忙な中で日常診療に役立てるものとして最新の診療方法のエッセンスを集めたものがあれば便利であろうということから、今回の特集号が企画された。全科を網羅したものに「今日の治療指針」があるが、耳鼻咽喉科領域については、その中にあるものより広い範囲とし、各領域を専攻されている諸先生に執筆をお願いした。1～2頁の中に診療の要点をまとめることは至難の業であるが、幸いにその目的が達成されているので、非常に価値あるものとなつた。

内容としては、各疾患別、症状別に加えて、他の疾患あるいは全身状態との関連において、耳鼻咽喉科診療を行なうときの注意についてもふれているところは特徴といえるであろう。ご執筆頂いた諸先生に感謝するとともに諸賢の参考書として役立つことを確信するものである。

(編集委員)